

2013年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」(共同利用型)
成果報告

近代ロシアにおける乳幼児の生存・生活の歴史に関する基礎的研究

村知稔三(青山学院女子短大子ども学科)

【申請内容】

フィリップ・アリエスの『子供の誕生』(1960年、邦訳1980年)などを契機に興隆を迎えた日本における子ども史研究から長く欠落してきたのがロシアである。本研究は、そのロシアの1860年代～1900年代について、子どものうち最も年齢の低い乳幼児を対象に、彼らの出生・生存・死亡・生活の一端を明らかにする基礎的作業である。帝政末期～ソ連期のロシア子ども史を通観するカトリオーナ・ケリー(オックスフォード大学教授)の2007年の大著では乳幼児の生活実態について論及が少なく、またロシアの近代化を考えるうえで不可欠な1860年代～1880年代が考察の外に置かれているからである。

【利用内容】

申請者は2013年9月と2014年3月にそれぞれ1週間ほどセンター図書室と附属図書館を利用した。

その間に閲覧できたのは、前者に所蔵されている「近代ロシア歴史・文化稀覯書に関するヘルシンキ大学図書館コレクション」などのマイクロ類と、後者の「ギブソン」「ベルンシュタイン」「ヴェルナツキー」などの特別コレクションである。

【成果】

閲覧できた資料などを用いて申請者は、幼児教育史学会第9回大会(2013年11月30日、青山学院女子短大)のシンポジウム「諸外国における保育制度改革の歴史的検討」において「3つのロシアと保育制度の変遷」と題する報告を行なった。この報告は2014年11月刊行予定の『幼児教育史研究』第9号で論文化される予定である。

そのほか、世界子ども学研究会第11回研究例会(2014年9月開催予定)における研究発表、『青山学院女子短期大学紀要』第68集(2014年12月刊行予定)掲載の論文などで順に成果を公表することになっている。